

小惑星はじき飛ばせる？ 衝突阻止に核爆弾も NASAが試算

2018年3月26日 10:56

【ワシントン=共同】地球に衝突しそうな直径500メートルの小惑星をはじいて安全な軌道へ移動させるには、重たい宇宙船を10年間に約50回ぶつける必要があるとの研究結果を、米航空宇宙局（NASA）などのチームが26日までにまとめた。

もっと大きな小惑星が飛来したり、地球への衝突直前に見つかったりすると、重い物をぶつけるだけでは対処できない可能性もあり、チームは「核爆弾を検討する必要がある」としている。

小惑星衝突というSF映画のような事態に備え、NASAは2016年に惑星防衛調整室を設置して対策の検討を始めているが、具体的な方法を示すのは初めて。小惑星を押して軌道を変えるには時間がかかるため、衝突までの期間が短いほど宇宙船を数多く飛ばす必要が生じる。早めの対応が重要だという。

2135年に地球に衝突する可能性がわずかながら懸念されている小惑星「ベンヌ」にNASAが開発する全長9メートル、重さ8.8トンの宇宙船「ハンマー」をぶつけて、衝撃で地球すれすれを通過する軌道に変更することを想定。

直径500メートル、重さ8千万トンのこの天体が地球に衝突するコースをたどった場合、回避するために宇宙船を10年間に約50回前後ぶつける必要があることが判明した。25年かけて軌道を変える場合は10回程度に減る。

ただ、直前になって初めて衝突しそうなことが分かった場合、チームは「対応が難しくなる」と警告、核爆弾を撃ち込み、衝撃で軌道変更させる手法も検討している。

NASAは16年に打ち上げた無人探査機「オシリス・レックス」を今年後半にベンヌに送り込み、岩石の組成などを詳しく調査する。

関連キーワード: NASA ベンヌ
